

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第215集

周防畑遺跡群

# 南下北原遺跡Ⅲ

長野県佐久市長土呂南下北原遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2013.07






佐久市教育委員会

## 例 言

- 1.本書は、有限会社マイティー長野が行う宅地造成に伴う周防畑遺跡群南下北原遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2.調査原因者 有限会社 マイティー長野
- 3.調査主体者 佐久市教育委員会
- 4.遺跡名および所在地 周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅲ(NMKⅢ)  
佐久市長土呂字南上北原934-7他
- 5.調査期間及び面積 平成25年4月8日～4月12日(現場作業)  
平成25年4月15日～(報告書作成作業)  
64㎡
- 6.調査担当者 富沢 一明
- 7.本書の編集・執筆は富沢が行った。
- 8.本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1.遺構の略記号は、住居址(H)・土坑(D)・ピット(P)である。
- 2.挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
- 3.遺構の標高は遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」とした。
- 4.土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
- 5.挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

	地山		焼土		掘方・灰軸範囲
	須恵器断面		粘土・黒色処理		



調査状況(南より)

## 目 次

### 例言・凡例・目次

### 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

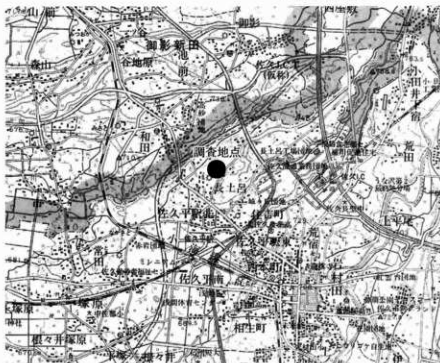
- 1.経過と立地
- 2.調査体制

### 第Ⅱ章 遺構と遺物

- 1.竪穴住居址
- 2.土 坑
- 3.まとめ

### 写真図版

### 抄 録



第1図 南下北原遺跡Ⅲ位置図(1:50000)

# 第I章 発掘調査の経緯

## 1.経過と立地

南下北原遺跡Ⅲは、佐久市の長土呂地籍に所在し、周防畑遺跡群の中ほどに位置する。遺跡は、佐久平北部にみられる「田切り地形」の台地上に立地し、台地周辺の海拔は720m前後を測る。

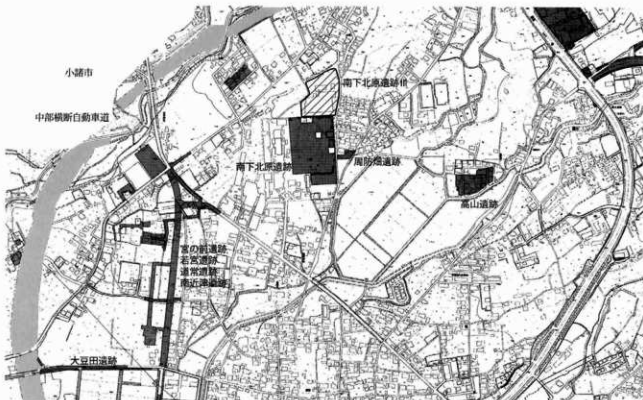
本遺跡の周辺では、南に接して南下北原遺跡が調査されている。奈良・平安時代の住居址11軒が発見され、特に注目される遺物として「刑部仁丸」と墨書された土師器柄が出土した。「刑部」は『和名抄』に記載された佐久郡八郷の一つの郷名であり、推定地は現在の野沢平に比定されている。この郷名に人名と考えられる墨書が記載された資料は佐久地域で初めての発見であり、また比定地外で発見されたことも含め非常に貴重な資料と言えよう。また、昭和54年に同じく奈良・平安時代の住居址5軒が調査された周防畑遺跡や、区画整理事業により弥生時代から中世までの大集落址が発見された若宮・宮の前遺跡などがある。

これらの調査成果として共通するものは「瓦」の出土があげられる。本遺跡周辺は古くより古代瓦が採集される場所として知られている。近年では近隣の工場造成の土より『川原寺式』の軒丸瓦が採取されている。このことは、古代佐久郡衙や定額寺の比定にあたり重要な資料と考えられる。

今回、遺跡群内で、有限会社マイティー長野より宅地造成の計画がなされ佐久市教育委員会に文化財保護法93条の届け出がなされた。当教育委員会では対象地の試掘調査を行い遺構が発見された為、保護協議を行い、遺跡破壊が免れない部分においては記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



調査区全景(西より)



第2図 周辺遺跡位置図(1:6000)

## 2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋盛夫
事務局	社会教育部	部長	矢野光宏
	文化財課	長	三石宗一
	文化財調査係	長	比田井清美
	文化財調査係		須藤隆司
			小林眞寿
			富沢一明
			上原学
			神津一明
			久保浩一郎
	嘱託職員		林幸彦

試掘調査担当	須藤隆司
調査担当	富沢一明
調査員	井出孝子
	加藤ひろ美
	土屋邦子
	広瀬梨恵子
	赤羽根篤
	坂井一夫
	木内修一
	飯森成英

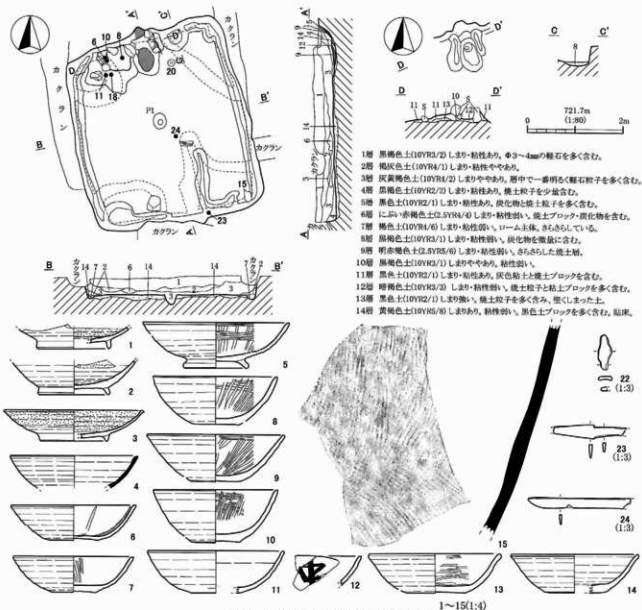


第3図 試掘トレンチ・遺構配置図(1:1000)

## 第II章 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居址

本調査では竪穴住居址1軒が検出された。H1号住居址は既存の建物基礎に一部分を破壊されていたが、ほぼ全容を把握できる状態で検出された。形態は方形で、北壁にカマドが構築されていた。住居址の規模は、北壁3.40m・南壁3.50m・西壁3.60m・東壁3.90mを測り、床面積は15㎡である。壁深さは南東コーナーで、最大43cmを測る。住居主軸方位はN-14°-Wを示す。床はカマド全面が非常に硬質化しており、全体に貼り床が施されていた。壁溝は北壁を除く部分の壁に施され、幅は5～10cm・深さ6cmを測る。



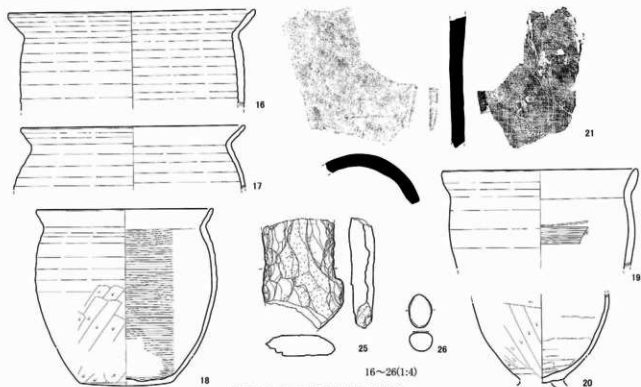
- 1層 黒褐色土(10YR2/2)しまり・粘性あり、φ3~4mmの軽石を多く含む。
- 2層 褐灰色土(10YR4/1)しまり・粘性ややあり。
- 3層 灰黄褐色土(10YR4/2)しまりややあり、層中で一番明るく軽石粒子を多く含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2)しまり・粘性あり、焼土粒子を少量含む。
- 5層 黒色土(10YR2/1)しまり・粘性あり、炭化物と焼土粒子を多く含む。
- 6層 濃い赤褐色土(2.5YR4/4)しまり・粘性弱い、焼土ブロック・炭化物を含む。
- 7層 褐色土(10YR4/6)しまり・粘性弱い、ローム土床、さらさらしている。
- 8層 黒褐色土(10YR2/1)しまり・粘性弱い、炭化物を微量に含む。
- 9層 明赤褐色土(2.5YR5/6)しまり・粘性弱い、さらさらした焼土層。
- 10層 黒褐色土(10YR2/1)しまりややあり、粘性弱い。
- 11層 黒色土(10YR2/1)しまり・粘性あり、灰色粘土と焼土ブロックを含む。
- 12層 暗褐色土(10YR3/3)しまり・粘性弱い、焼土粒子と焼土ブロックを多く含む。
- 13層 黒色土(10YR2/1)しまり強い、焼土粒子を多く含む、堅くまとった土。
- 14層 黄褐色土(10YR5/5)しまりあり、粘性弱い、黒色土ブロックを多く含む、陥床。

第4図 H1号住居址及び出土遺物

ピットは住居中央から1ヶ所検出された。規模は径30cm・深さ24cmを測る。カマドは住居北壁中央に位置し、白色粘土と自然礫により袖部は構築されていた。煙道部はあまり外に飛び出さないタイプのもので、正面壁はよく焼けていた。袖は向かって右側は礫も原位置を保っており残存状況も良好であったが、左側は粘土が流れ出したように床に広がり、構築材と考えられる礫や土師器裏片が多数出土した。火床部はカマド中央部によく焼けた状態で確認され、焼土の厚みは4cmを測る。また、カマド脇には貯蔵穴と考えられる掘り込みが確認され、規模は長軸50cm・短軸60cm・深さ10cmを測る。本址の掘方はコーナー部が一段掘りくぼむもので図上点線で示した。

本址からの出土遺物は図示可能な26点の土器・石器・鉄製品を示した。1~3は灰軸陶器で1・2は碗、3は皿である。4は軟質の須恵器杯、5は土師器碗、6~12は内面黒色処理の土師器杯で12は墨書が確認できる。13と14は土師器杯。15は須恵器甕の胴部、16~19はロクロく成形の土師器甕で、18は胴部下半にケズリを施す。20は土師器台付甕で脚部と胴部上半が欠損している。21は丸瓦で内面に布目痕が確認できる。22~24は鉄製品で、断定はできないが22は鉄鏃、23・24は刀子と考えられる。25は打製石斧であり混入品、26は片側が磨られており、すり石と考えられる。

本址はこれら出土遺物から9世紀後半から10世紀前半の所産と考えられる。

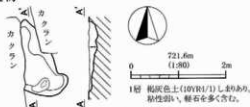


第5図 H1号住居址出土遺物

## 2. 土坑

本址は、H1号住居址と建物基礎の間で検出された。形態は不整形で底面にビット状の掘り込みをもつ。規模は長軸1.65m・短軸0.85m・深さは0.18mを測る。

本址からの出土遺物はなかった。



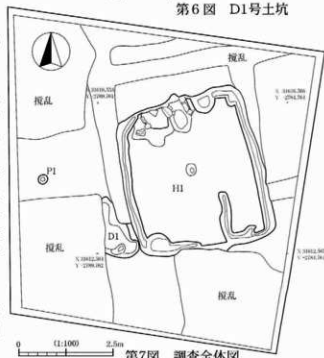
第6図 D1号土坑

## 3. まとめ

今回の調査は非常に限られた範囲の調査であり面積も64㎡という極小規模のものであったが、貴重な成果を上げることができた。

まず第一は丸瓦の発見である。先にも触れたが佐久地域において古代瓦の出土は非常に希少である。その瓦の一部が発掘調査によりおおよその時期の解る住居址から出土したという事は、今後瓦の帰属時期や使用場所を考えるうえで好資料となるであろう。ちなみに今回発見された住居は出土遺物より平安時代中頃(9世紀後半～10世紀前半)の時期が考えられる。付近に存在が想定される佐久郡の定額寺「妙楽寺」が『日本三代実録』に記載されるのは貞観八年(866年)の記事である。

くしくも出土遺構と時期が近似する。周辺遺跡からの出土資料も合わせ総合的な検討の時期に来ていると考えられる。



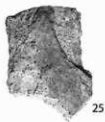
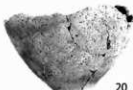
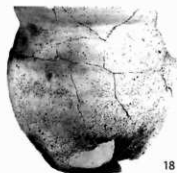
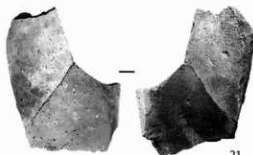
第7図 調査全体図



H1号住居址



D1号土坑



1~26(1:4)

## 報告書抄録

ふりがな	すぼうばたいせきぐん みなみしもきたはらいせきさん							
書名	周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅲ							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第215集							
編著者名	富沢 一明							
編集機関	佐久市教育委員会 文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL0267-68-7321 FAX0267-68-7323							
発行年月日	平成25年(2013)7月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
すぼうばたいせきぐん みなみしもきたはらい せきさん  周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅲ	さくしながとろ  佐久市長土呂 934-7他	20217	7	36°17.17	138°27.57	20130408 ～ 20130412	64	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅲ	集落址	奈良 平安	住居址1軒 土坑1基	土師器・須恵器・ 灰軸陶器・石器・ 鉄製品・丸瓦				
要 約	台地上に展開する古代集落の西端一部分を調査した。周辺の調査事例と同様に古代の丸瓦1点が出土し注目される。							

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第215集  
 周防畑遺跡群 南下北原遺跡Ⅲ  
 平成25年(2013) 7月  
 編集・発行 佐久市教育委員会  
 〒385-8501 長野県佐久市中込3056  
 文化財課  
 〒385-0006 長野県佐久市志賀5953  
 Tel.0267-68-7321  
 印刷所 キクハラインク有限公司

---